

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ミーンマシン	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.540	△RG	0.050	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番

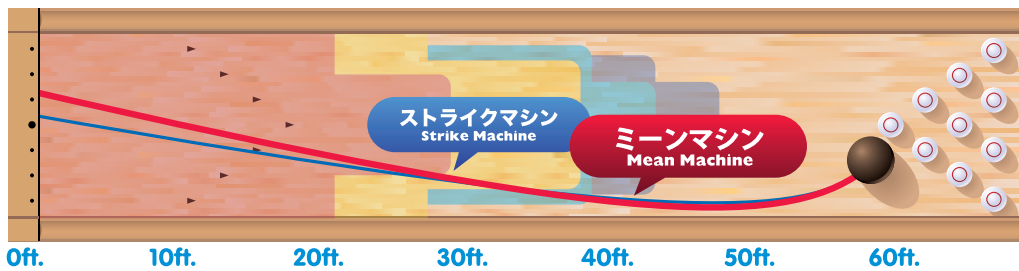
比較対照ボール：ストライクマシン

フレアーの幅 インチ

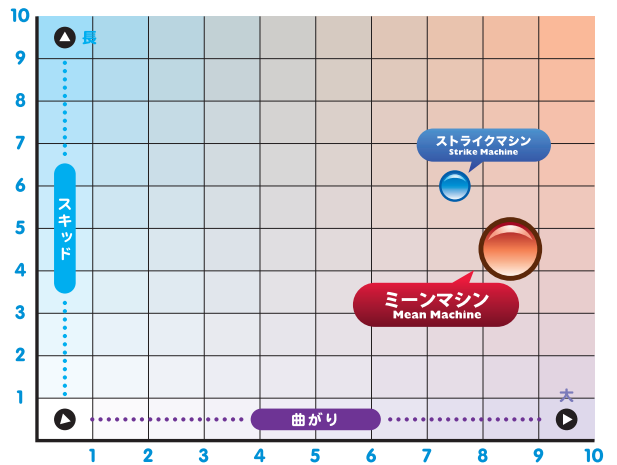
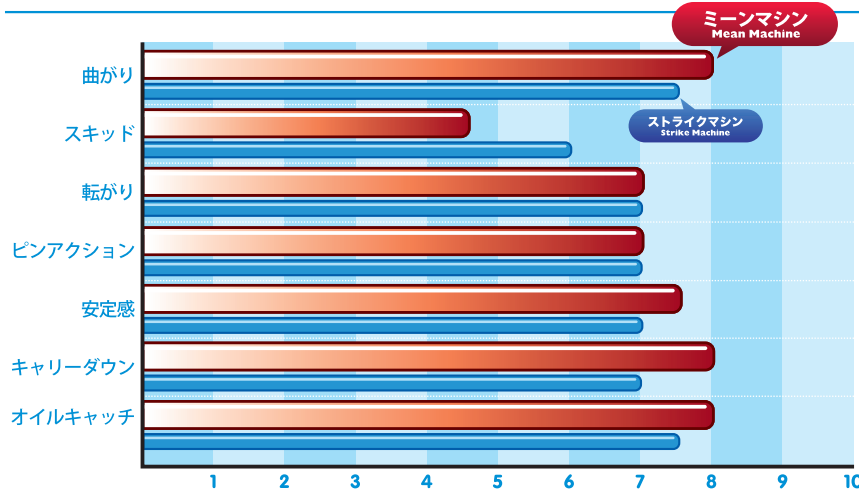
PAPからピンとの距離 **5 1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レーンコンディション: Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

バックエンドリアクション: Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

レンジス: Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

ボールの評価

ナノトレッド・カバーストックで接地エリアを増加させ、オイル上での総合的なキャッチ力を向上させ、尚且つバックエンドで爆発的なエネルギー開放で角のでのリアクションを実現させたストライクマシンは、リアクション同様、現在も爆発的なヒット商品であります。今回、ストライクマシンよりもヘビーオイル及びキャリアダウンしたコンディションで使用できるスペックとしてミーンマシンを発表いたします。カバーストックに FANG LS CONTROL REACTIVE を採用し、表面加工を 1500 SMOOTH 仕上げに施しました。投球した感じは、まず表面加工の見た目よりスムーズなスキッド感を得られるイメージがあります。しかし、ストライクマシンと絶対的に違うのはスキッド感はもちろんのこと、**バックエンドでのブレイクポイントが明らかに手前に感じる**ことです。そこで曲がり終わってしまい、俗に言う「タレ」てしまうと思いきや、**まだそこから鋭い曲がりを得られることができます。**ドライゾーンでのリアクション反応は一步、ストライクマシンに譲るとしても、ミッドエリアでストライクマシンで感じるオイルはミーンマシンでは感じる事が出来ません。それだけ**オイル上でのキャッチ力があるということであり、総合的なポテンシャルがオイルの多いと感じたときに使用するボール**ということでしょう。リアクション特性はストロング・フリップでフレア幅は7インチに及びます。スピニングも 5.6 秒と強めの設定で、ストライクマシン同様、**大きく外に向けても戻る安心感のあるボールです。**

特記事項

ストライクマシンを気に入って使用していただいている方も多はず。そのボールを進化させ、さらにオイルに強くし曲がり求めました。ストライクマシンよりもう少し手前から曲がりほしい方にオススメです。